

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立掛川特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	269人				

1. 使用状況

寄贈物品名	ハンドプレス機（抜き型用工具）
使用学年及び人数	高等部革工芸班 20人
使用頻度	週2回
使用状況	高等部革工芸班で、一枚革から製品の形へ、切り出しを行っている。
物品の使用による 変化や効果	<p>これまでは、カッター等を使って一部の生徒や教師が革の切り出しを行っており、手作業での切り出しは、時間もかかり、生産できる製品が少なかった。また、複雑な形の製品の切り出しは難しく、失敗も多いため、教師が担うことが多く、生徒が主体的に革の準備に関わるのが難しい現状があった。</p> <p>ハンドプレス機を使用することで、障害の程度が重い生徒も切り出しの作業に携わることができるようになった。また、切り出しを生徒主体で取り組むことができるようになったことで、切り出しの段階から製品の生産管理を生徒が行うことができるようになったり、生産数が増えたりした。</p>
今後の活用の 見通しや課題	<p>プレス機を使えば、障害の程度が重い生徒たちでも型抜きができ、製品作りに携わることができており、今後もどの生徒でも使用ができるよう、安全に使用していきたい。</p> <p>生産管理という部分で、製品作りの最初の工程であり、どの製品をいくつ切り出したかというところから生徒が関わることで、生徒たちが主体的に班運営に携わることができている。</p> <p>今後、型の種類を増やしていき、どの製品であっても生徒がプレス機で型抜きができるようにしていけると良い。</p>
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子



プレス機を使って革の切り出しを行っていきます。
どの生徒でも安全に作業ができます。



型を抜いた革に刻印を打ち、染色をします。



革の表面につやを出したり、
裏面を滑らかにします。

手縫やかがり、ホック付けをして製品が完成します。(プレス機で形を抜いた製品です。)

